

「母子保健」 学び交流を深める

京都府在宅保健師の会第一回研修会



京都府在宅保健師の会の平成 29 年度第一回研修会が 10 月 6 日、本会で開かれた。在宅保健師 23 人のほか市町村保健師 5 人が参加し、交流を深めた。

府在宅保健師の会の家原裕子会長が開会挨拶で「今回は久しぶりに講演で母子保健を取り上げました。それぞれご自分の地域で何ができるのか、考える参考にしていただきたい。また情報交換会では、在宅保健師の会の重要目標の一つになっている会員同士の横のつながりを深めていただき、今後の日常活動に生かしてください」と述べた。

この後、大阪人間科学大学副学長で NPO 法人「こころの子育てインターねっ」と関西」代表の原田正文氏（精神科医）

が「ママたちを『非常事態！？』から救い出すのは母子保健の使命～『親子の絆づく

りプログラム“赤ちゃんがきた！”』（BP プログラム）の実践より～」と題して講演した。

原田氏は大阪府や兵庫県で実施した子育て実態調査から「核家族、少子高齢化が急激に進み不安と孤立にさいなまれながら子育てをしている親が非常に多い。乳幼児と接する機会がほとんどないまま、わが子が生まれて初めて赤ちゃんを抱くというのが実情だ」と現状を分析。その上で、「0 歳時期にしっかりと親子の絆をつくるのが非常に重要である」と指摘し、NPO 法人が取り組んでいる 0 歳の赤ちゃんを初めて育てている母親向けの BP プログラムを紹介。

「初めから完璧な親はいません。親自身が仲間をつくり協力し合いながら学び、親として育つ場所こそ求められています」と話した。

この後、情報交換会が開かれ、日ごろ接触の少ない会員同士が自己紹介をしながら、それぞれの活動状況や悩み事などについて交流を深めあった。



原田氏